



さだ公民館だより

令和7年4月22日 109号 編集・発行 佐田地区公民館 電話：44-0312

赤井城址に古墳が有るのでは？

且尾から佐田温泉を直線で結んだ
山のとっぺんに赤井城址があります
そこには 古墳が有るのではないかと
安心院縄文会が宇佐市役所に調査を依頼した
宇佐市役所文化財調査委員の山崎さん安藤さん
安心院縄文会メンバーが 4月3日15時
佐田京石駐車場に集合し赤井城址に赴き
調査を開始した
専門的知識を持っている安藤さんの話では
【古墳】は無かったとのことだったが
城や寺は存在していた 菩提寺に刻まれた年号
を見ると 1500年代安土桃山時代に作られた
もの佐田の歴史を感じました
どんな生活をしていたのかなあ



俳句教室

令和七年三月 第四〇五号

佐田句会 三月十八日 参加者七名

兼題 さくら 春眠 彼岸

桜は咲いている前提で選句いたしました。

松本公節 選評

○ 北浦の桜ほころぶ日和かな 二三華

(評) 寒暖の繰り返しで、桜も二の足、もう咲くでしょう。
美佐子

○ 春眠や寝坊の夫に起こさるる

(評) 日頃から気の張っている人も、「春眠」には勝てないですね。
まさ子

○ アンパンも牛乳パンも春楽し

(評) パンの香りは春の温かさに通じてるかも。
彰裕

○ 閑さや春の眠りを誘ひける

(評) 確かに、静かな場所は眠くなります。発見かも。
義彦

○ 少年と少女に頻る春の雪

(評) 卒業の別れの景色が春の雪でより鮮明に。
征子

○ リハビリへ桜の下でバスを待つ

(評) いつものバス停に花が咲きますよ。

選者吟 岬まで河津ざくらの続きをり

次回、佐田句会は

四月十五日佐田公民館

兼題は 新入生 晩春 若草



令和7年佐田小学校入学式



四月十一日金曜日、佐田小学校入学式が行われました。

前日の激しい雨が嘘のように晴れ渡った空、今年の新入生3名、たぶんみんな行いが良いから快晴になったんだと思った。

入学式式典での新入生紹介時に担任の先生から名前を呼ばれたら緊張しながらも大きな声で元気よく「ハイ」と返事をしていたこと、印象に残っています。

校長先生からの式辞、教育委員会からの告辞、来賓の祝辞、在校生からの歓迎の言葉に校歌の斉唱、目を丸くして注目しながら聞いていました、立派でした。

三月六年生五名が卒業し、新年度四月からの佐田小学校児童は十四名になり、年々児童数が減少していくのは寂しい気もしていましたが、入学式での児童のきびきびとした動作・姿勢、元気な様子を見てみると少人数でも、みんなで力を合わせて進んで行くぞというパワーを感じました。

これからの小学校生活、たくさん学び、いろんな経験をし、毎日がたのしい日々であるように、地域の人たちは応援してくれるものと思っています。

佐田っ子たち、よく食べて・いっぱい遊んで・ぐっすり寝て、笑顔でたくましく成長することを期待しています。張り切って行こう。

佐田公民館だよりQRコード
スマホからカラーで閲覧できます。



【五月】生活歳時記より

五月は行楽の月である。レジャーの月である。一年のうちで最もさわやかなこの季節を心ゆくまでたのしむべきときが五月である。

人間は仕事に対してと同様、たのしむ場合にも徹底的にたのしむ必要がある。うじうじためらっていたのでは、いつしか人生の春は過ぎてしまう。「古人、燭（ともしび）をとりて夜遊ぶ。まことに故あるなり」というとおり。古人も真剣に遊ばんとした。人生が限りあるものである以上、まことに故あるなりである。せつかくの休日を経て暮らすのはいかにも惜しい。晩年になって悔いをのこすこと必定である。

人間、働くのも遊ぶのもエネルギーの根源は同じである。よく学ぶものはよく遊ぶとはよく言ったものである。活力が枯れはてた者は、遊ぶ気力も消えはててぼんやりと五月の休日を寝て暮らしたりする。それではいけない。人間、生命あるかぎり、いつも五月のようにさわやかに生きたい。

さて、行動開始だ!!